

5

相談室 Q & A

子の問いかけと人の和

東本願寺

ケガした捨て猫の助けを娘に頼まれて	1
死んだ父さんどこにいるの	7
何のために勉強するのか	11
大人らしくって何	16
無口ですぐ会話がとぎれる私	21
隣人の自己本意な行いに困惑	27
仲人した若夫婦の夫が事故死して	33
望む仕事ができず職場がおもしろくない	37

職場の同僚とうまがいません	42
職場でのあいさつの返事が返ってきません	47

ケガした捨て猫の助けを娘に頼まれて

Q

歳末の街を娘（小学一年生）と歩いている

とき、路上で一匹の野良猫が車にひかれて、足をひきずっていました。その猫を娘が抱いて「病院へ連れて行って」と言いましたが、私はそれをとっさに拒んでしまいました。

日ごろ、いのちの尊さを娘にも言い聞かせ、私自身も考えてきたはずなのに、こんな行動をとってしまいました。それ以来、自分の心の中に引っ

かかるものがあるのですが……。 (女性・37歳)

A 自分の心の中に引っかかるもの、その心を大切にしてください。

気をつけなければならないことは、そんなときに言いわけしてまでも自己を正当化しようとする根の深い心があることです。その点あなたは一年近くも引っかかり続けてきた、それが大事なことですし、少々、言いわけしたって収まらない、何かにうながされ、問いかけられているものがあるからなのでしょう。

同朋会館どうぼうの玄関だんえいに、金子大榮先生の「やり直しのきかぬ人生であるが、見直すことはできる」ということばが掲示けいじされてありました

が、見直してみるという、その内容の問題でしょう。

それが単なる自己反省なら、その反省の心も自分の心ですし、それにまた、反論する自分の心が言いわけとして出てきます。実際に処理方法の問題として受けとめるなら、困ることはいっばい出てきません。

最近、新聞にも出たように、公園に捨てられている猫をかわいそうにとっては家に連れ帰り育てているうちに、六十四匹にもなり、マンションの家主から訴えられている記事がありましたし、寺の門口のところへダンボール箱に子猫を入れて置いてあった話など、たくさんあります。

こんなにまで、捨て犬や捨て猫が増えるようでは、かわいがって

いるはずの育てる側の意識さえ問題になってきます。そういう意味で、あなたの場合を考えると、病院に連れていけば自分のところへ引き取らねばなくなるし、それは困るからやむをえなかったという言いわけにもなってしまう。

だから、この出来事を見直すということは、自己反省でなく、そうしたあなたのさまざまな心を照らし出すような法語に遇うことでしょうか。

私も寺にいて、少しばかりの畑をもっていますが、秋になると、冬眠支度のために土にもぐっている蛙を、鋏でばっさり殺してしまふことがたびたびあります。

そのとき『歎異抄』第四章の「いかに、いとおし不便とおもうとも、存知のごとくたすけがたければ、この慈悲始終なし」という教えがお念仏の中に出てくださいます。

つまり、対応としてはどうしようもないようなご縁が、あなたをして、そのことのおかげで深い世界へ導き育ててくださってあることへ眼を向けてください。その事実にならずいたら、娘さんと猫に、そつとお礼を言いましょ。

(第三四九号、86・12)

『歎異抄』第四章

慈悲に聖道・浄土のかわりめあり。聖道の慈悲というは、ものをあわれみ、かなしみ、はぐくむなり。しかれども、おもうがごとくたすけとぐること、きわめてありがたし。浄土の慈悲というは、念仏して、いそぎ仏になりて、大慈大悲心をもって、おもうがごとく衆生を利益するをいふべ